

<ジェットロバンコク駐在を経て>

2018年9月

秋山国際特許商標事務所（元ジェットロ・バンコク事務所） 石川勇介

<1. はじめに>

筆者は、日本弁理士会を通じて、2016年10月から2018年3月までジェットロバンコク知的財産部に所属し、アセアン10カ国、特にメコン地域（タイ、ベトナム、カンボジア、ラオス及びミャンマー）を対象国として、日系企業等の知的財産に関する業務をサポートする業務を行ってきた。

本稿では、「ジェットロバンコク知的財産部の業務」、「アジア特許情報研究会とのつながり」のほか、「私のタイ駐在生活」についても簡単にご紹介したい。

<2. ジェットロバンコク知的財産部の業務>

主な業務として、東南アジアでの「知財制度に関する情報の調査・広報」、「日系企業の模倣品対策」を中心とする知財活動の支援を行うべく、タイを中心として東南アジア各国を飛び回り、現地の知財関係者との意見交換や共同事業の開催、現地マーケット調査も含めて多岐にわたる業務を行ってきた。

詳細は、月間パテント誌（日本弁理士会）2018年6月号をご参照頂きたい。

<https://system.jpaa.or.jp/patent/viewPdf/3020>

約1年6カ月の駐在期間の中で、タイのほか、メコン地域（ミャンマーに25回、ベトナムに10回、カンボジアに8回、ラオスに6回）を中心に飛び回って各国の知財関係者との交流を深めたこと、プライベートも含めてアセアン10カ国を制覇し、現地の状況を肌で感じたこと、そのほか、ベトナム国境都市ラオバオ（ラオスとの国境）にてベトナム警察に捕まったことや、ミャンマー国境都市ティーキー（タイとの国境）にてパスポートを没収されてしまう等の危険に遭遇する等、日本では決して得られない経験をすることができた。

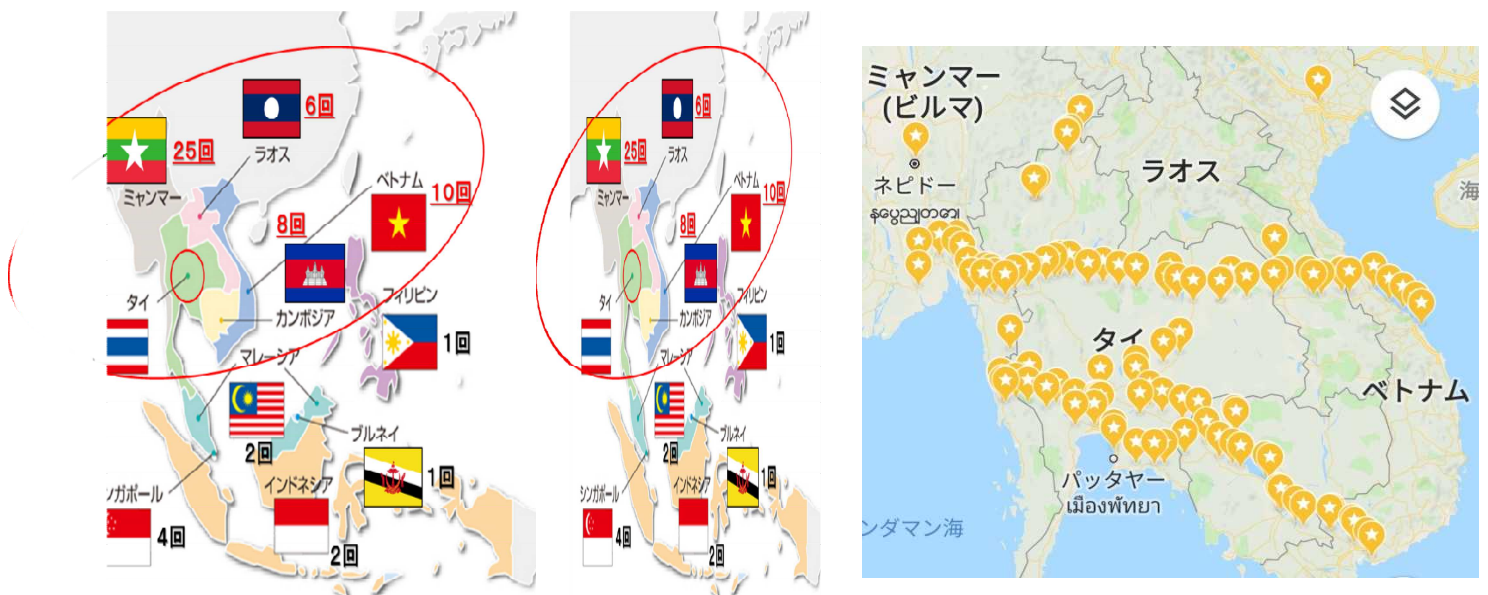


写真1：筆者のアセアン各国への渡航回数。特にメコン地域では陸路で大陸横断を達成。

< 3. アジア特許情報研究会とのつながり >

ジェトロバンコク知財部では、「知財制度に関する情報調査およびその広報」の一環として、アセアン10カ国を対象国とし、毎年5～10本程度の各種調査報告（例えば、2017年度では「タイにおける権利執行状況に関する調査」、「アセアン主要国の税関における知財関連法規・運用実態の調査」、「各知財庁が提供する産業財産権データベースの調査報告」等）を実施しており、ジェトロHPにウェブアップしている。

<https://www.jetro.go.jp/world/asia/asean/ip/>

上記調査報告の中で、アジア特許情報研究会の皆様方には、ほぼ毎年「各知財庁が提供する産業財産権データベースの調査報告」を業務委託させて頂き、大変詳細な、時に鋭く切り込んだ調査報告書を作成頂くとともに、毎年開催のASEAN知財動向報告会（今年は5月30日に開催済）にて調査内容をご発表頂いた。

2017年度では、ASEAN6カ国（インドネシア、フィリピン、ベトナム、タイ、マレーシア、シンガポール）の特許・実用新案検索DB、意匠検索DB、商標検索DBおよびこれらを用いた検索手法等について、また、産業財産権の権利化までに要する期間等の統計情報に関する調査を行って頂いたので、上記ジェトロ・ウェブサイトからは是非ご参照頂きたい。

同研究会の伊藤様、中西様はじめ皆様方には、常に新規性・進歩性のある調査・分析内容を提案して頂き、この場を借りて厚く御礼を申し上げたい。

< 4. 私のタイ駐在生活 >

タイ駐在生活において感じたことは色々あったが、この場では「タイ語」と「タイの公共バス」、「タイ周辺国の観光」について簡単に述べさせて頂きたい。

タイ駐在生活を始めて6カ月が経過した頃に、タイ語のプライベートレッスンを週2回受けることを決心した。タイ語には、基本的な母音が18個あり（短母音、長母音がそれぞれ9個ある）、かつ、標準形として5つの声調が存在するため発音が難しい。タイ語の勉強本に記載されたカタカナ表記の発音では、超基本的な挨拶や日常会話を除いてタイ人には通じることがない。日本人がカタカナ発音した場合には、タイ人は決まって、「はあっ??（日本語で「なんて言ったの?」という意味合いらしい）」と言ってくる。そのため、初めての方はさぞ驚くことだろう（実際はフレンドリーなのだが、若干怒っている様に感じてしまう）。そのため、タイ語の発音を学ぶには、まずプライベートレッスンで発音を矯正してもらうことが早道であろうと感じた。

次に、タイの公共バスについて所感を述べたい。筆者はタクシーが嫌いである（交渉が面倒であること、メーター運賃が徐々に上昇していくのが好きではない等）。そのため、タイに着任してからは、プライベートではタクシーを極力避けて生活していた。タクシー以外の手段になると電車を想像するかもしれないが、慣れてくるとバスマップを見ながら公共バスに乗ることもお勧めしたい。さらに慣れてくれば、筆者のようにバスマップいらずでバスに乗れるようになるだろう（公共バス正面にある番号を確認して躊躇することなく飛び乗り、1時間ほどバスに揺られて目的地に到着できたときの達成感是非常に大きい）。駐在生活の終盤になると、筆者はバスのヘビーユーザーとなり、どのバスがどの辺りまで向かうのか大抵把握できるようになった（1乗車7～15バーツ（21～45円程

度で1、2時間延々とバスに乗ることができる)。エアコンのない扇風機のみが取り付けられた公共バスでは、基本的にドアが開けばなしのため、信号で停止中に飛び降りるタイ人がある。筆者も何度か経験があるが、後続のバイクに一度轢かれそうになった。

タイはアセアンの中心に位置する国、アジアのほぼ中心に位置する国と言っても差し支えはなく、多くのタイ駐在者が、格安航空会社（エアアジア、スクート等）を利用してアセアン各国のほか、アセアン周辺国に観光に出かけていた。筆者もタイ駐在を生かして、バンコクからダイレクト便にてニューデリー（インド）や、モルディブを訪問することができた。ニューデリーから車で約2時間の場所にあるタージマハールを目にしたときには言葉に表せないほどの感銘を受け、また、モルディブから公共フェリーを利用して訪れた島々は、エメラルドグリーンの海が広がるリゾート地であった。



写真2（左）：タイ出張者の間で一番人気のタイ料理。タイ語を読めるだろうか？

写真3（中央）：飛び降り可能なタイのサバーイ・サバーイな公共バス。

写真4（右）：インドのタージマハールにてインド人の美女4姉妹と。

< 5. 最後に >

ジェットロバンコクの業務では、アセアン各国政府の知財関係者の方々と交流を深めることができ、民間では得難い経験をすることができた。アセアンの国々は、経済や法整備の発展度合の差が大きく、一括りにすることは難しいが、いずれの国でも知的財産の重要性は高まってきていると言える。今後は、ジェットロバンコク駐在で学んだ知識や得られた人脈等を活かし、日系企業・団体のサポートをできれば幸いである。

最後に、ジェットロ出向期間中、ご支援・ご指導頂いた関係各位の皆さま方には大変感謝するとともに、この場で御礼を申し上げたい。

以上
(2018年9月10日受理)